

## 9/11 開催 地域学校薬剤師研修会 開催報告

市川市学校薬剤師会  
支部長 島崎美知子

市川支部では、水質検査や有機化合物の空気検査等を教育委員会から業者に委託していますので、以前のように学校薬剤師が集まって検査をし、情報交換する機会がなくなりました。また、新しく学校薬剤師になった方との引き継ぎがうまく出来ず、一同集合しての研修会を切望していました。そのような折、千葉県学校薬剤師会のサポート事業として地域支部単位の研修会をバックアップして下さると聞き、お願いいたしました。

9月11日（木）午後8時から市川市薬剤師会事務所で開催、出席者35名でした。千葉県学校薬剤師会相談役の金親肇先生に「学校環境衛生基準解

説と主な事後処理」という内容で、千葉市での検査の現況も詳しくお話しいただきました。後半30分程が質問タイムでしたが、毎年同じ内容の検査で形だけになっていないだろうか。要望した事が反映されているのか。助言する際のポイントが知りたい等、新人からベテラン学校薬剤師までフロアからの質問に丁寧にお答えいただき、9時過ぎに閉会しました。財政難を強調しつつ、学校薬剤師部会に予算計上して下さる市川市に感謝し、感染性胃腸炎、PM 2.5、放射線量等、最新の情報を行政と共有して、学校の環境衛生に係わっていく事の重要性を再確認いたしました。



## 地域学校薬剤師研修会報告

柏市学校薬剤師会  
支部長 大塚昌孝

9/20（土）午後7時よりアミュゼ柏 1F プラザにて東葛5支部（松戸・野田・我孫子・流山・柏）の地域学校薬剤師研修会が行われました。この研修会は昨年から行われている千葉県学校薬剤師会の地域サポート事業で、地域の学校薬剤師会が合同で開催する研修会です。

当日は35名の先生方にお集まりいただきました。第一部は千葉県薬剤師検査センターの森様・湯浅様に「飲料水検査の概要」「貯水槽設備の概要」についてご講演いただき、飲料水検査の概要について、検査の方法や各検査の意義、水道水に色がついていた場合の考えられる原因など提示していただきました。

貯水槽設備については、貯水槽の維持管理に関する注意点や蛇口から遊離残留塩素が出にくい場合（生徒数の減少により受水槽や高置水槽の容量とのバランスが悪い事例）の対処法など大変参考になるお話でした。県立高校を担当している先生方は実際に行っている検査ですのでピンときたかもしれませんが、小中学校でも実際は貯水槽があり同じような検査を業者の方が行っています。貯水槽に関しての知識も学校薬剤師として持つておかないと、異常が出た際の事後措置に関して適切なアドバイスがで

きないこととなりますので、小中学校担当の先生方も他人ごとではありません。また非常に興味深かったのは、塩素が濃い場合はDPD試薬を入れても色につかない、一瞬赤い粒が落ちて後は薄い黄色になるなどの事例があることでした。通常DPD試薬を入れたらピンクになると推察されるのですが、塩素濃度が非常に濃い場合やpHの状態により色が出ないことがあるようです。

第二部は各支部で生じた事例紹介・対処法をもとに、各先生方からの質疑応答を東葛5支部の支部長先生にご登壇いただき、出席者からの質疑に答えていただきました。

飲料水やプールのpH（ピーエッチ）の検査ですが、柏支部の先生から使い捨てのpHキットを使用しているが比色に分かりにくいという意見があり、松戸支部の安藤先生から別の試薬（フェノールレッド）に変えると分かりやすいのではとのアドバイスを頂きました。

学校薬剤師として本日習ったこと以外にもいろいろな知識や事後措置例など、多くの会員の先生方と情報を共有し、色々な知識を持たなくてはと思った研修会でした。



<当日の会場>



<事例紹介>



<ベテラン支部長への質疑>

第2回 支部長会議報告

平成26年9月28日  
10:30～12:00

今回の支部長会議は、2題目について、各グループでディスカッションし、最後に発表することで問題点を共有することを目的に行いました。 (敬称略)

**グループ① 地域の学校薬剤師を増やすには？**  
 深谷 (外房) 大塚 (柏) 矢野 (外房) 湯浅 (印旛)  
 竹内 (習志野)  
 ☆学校薬剤師の魅力  
 ・もっと学校薬剤師の魅力を知ってもらう。  
 ・良いPRの方法を考える (会員向けに)  
 ☆会員の増加  
 ・PTAや個人会員などにもPRして学校薬剤師として活躍したい人を掘り起こす。  
 ・薬学実習生を受け入れている薬局にアプローチ  
 ☆一人薬剤師の問題  
 ・開局前に学校へ行くなど時間をやり繰りする

**グループ③ 学校薬剤師として行うべき検査を遂行するには？**  
 並木 (山武) 大野 (千葉) 小柴 (君津)  
 佐瀬 (旭) 松下 (我孫子) 麻生 (オブザーバー)  
 ☆教育委員会 1.予算の確保 2.学校側の理解 (校長・養護教諭) 3.検査項目に対する認識不足  
 ☆学校薬剤師会 1.検査器具の不足 2.会員数の不足 3.会員同士の連絡不足 4.問題発生時の対応 5.新人教育や会員のレベルアップ  
 ☆上記を踏まえ今後も、県学薬と地域薬剤師会が協力し、教育委員会や学校薬剤師さらには非会員への積極的な働きかけが必要である。

題目1：地域の学校薬剤師を増やすには？  
 題目2：学校薬剤師として行うべき検査を遂行するには？

**グループ② 地域の学校薬剤師を増やすには？**  
 藤波 (流山) 小西 (市原) 土橋 (外房) 谷 (鴨川)  
 ☆政治的解決 (藤井文科副大臣に要請)  
 ・営業時間、勤務時間内の活動について  
 ・実施項目と報酬面のバランス  
 ☆学校薬剤師知識の向上と共有  
 ・若手薬剤師勉強会 (学薬会員問わず)  
 ・定期研修会の実施 (技術と措置)  
 ☆オール薬剤師  
 ・チェーン薬局薬剤師、地域病院薬剤師の勧誘  
 ・個人会員 (学薬、夜急診等) の設置

**グループ④ 学校薬剤師として行うべき検査を遂行するには？**  
 宮代 (外房) 日向 (千葉) 小山 (館山) 三宅 (香取)  
 川上 (松戸) 春田 (オブザーバー)  
 ☆検査を行うための予算  
 ・学校薬剤師の報酬が少ないので、教育委員会と交渉して予算をもらう  
 ☆学校薬剤師の知識と技術  
 ・今まで、検査をしていなかった。新しい検査が増えた等、技術の向上のため研修を行う  
 ☆検査の必要性を理解してもらうために  
 ・教育委員会・学校との連絡を密にとる



グループ発表の様子

・・・グループ発表を聞いて・・・ 畑中 範子  
 今回初めての試みでしたが、濃厚な2時間、活発にご討議頂き、本当にありがとうございました。  
 支部長の学薬への熱い想いをひしひしと感じました。  
 この貴重なご意見をまとめまして、千葉県学校薬剤師会として、早急に取り組んでいけることから進めていきたいと考えております。  
 もっともっと学校薬剤師の魅力をPRできるように!!

## 「第 64 回全国学校薬剤師大会」及び「第 64 回全国学校保健研究大会」に参加して

千葉県学校薬剤師会  
 常任委員 大野定行

「第 64 回全国学校薬剤師大会」及び「第 64 回全国学校保健研究大会」が 11 月 6 日、7 日に石川県金沢市において開催されました。

「第 64 回全国学校保健研究大会」は、「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進—健康で安全な生活を送る子供たちの育成—」を主題に開催されました。

開会式後の表彰式において、船橋市立葛飾小学校の学校薬剤師である荒木隆三先生が文部科学大臣表彰を受賞されました。誠にありがとうございます。

全体会後の記念講演は、「学校における健康教育を未来に生きる子供たちのために」という演題で聖心女子大学文学部教育学科 植田 誠治先生の講演がありました。

現代の子供たちは携帯電話やインターネットの普及をはじめとする情報化社会の急速な発展の中に生きており、このような変化の中で大人になっていく。これらを踏まえて、学校における健康教育は今の子供たちはもちろんであるが、未来に生きる子供たちに必要な保健の教養は何か、そしてそれを身につけていくに必要なものは何かについて先生の現場での実践例をいれながら講義されました。また、「あれもこれも」から“これをこそ”へと、問題意識は必要だが、それが高すぎてついつい教える内容を欲張ってしまうことがある。“あれもこれも”教えたい、学んでほしいという思い・願いから“これをこそ”教えたい、学んでほしいという思い・願いへ転化し、指導内容を精選する。そうすると子供たちは消化不良をおこさないと述べられました。このことは我々学校薬剤師が薬の正しい使い方教室を行う上でも資料を作成する基本となると思いました。最後に学校における健康教育の中心は教員であるが、内容によっては専門家との連携が必要であり、健康教育の推進に効果をもたらすと述べられました。

「第 64 回全国学校薬剤師大会」は、「生涯を通じて心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ健康教育の推進 —明るい未来を創る児童生徒の健全な心身・成長のために—」を主題として、教育と学校薬剤師の在り方を見つめ直す機会とし、時代に要請される学校薬剤師像を探ることを目的として開催されました。

開会式後の表彰式では、学校薬剤師制度創立 60 周年記念文部科学大臣表彰があり、千葉県からは畠山由夫先生、松下世津子先生、三代川重義先生、竹内清先生、鶴岡醇先生が受賞されました。誠にありがとうございます。

特別講演は「食から子供健康を考える 漢方の立場から」という演題で北陸大学 薬学部医療薬学講座 教授 劉 園英先生の講演がありました。現代の子供たちの食生活の乱れは大きくインスタント食品をはじめスナック菓子やファストフードなどにより日本の食文化が急激に変化していることは憂慮すべき問題である。食品添加物の許可数においてもアメリカ約 140、英国約 14、北欧 0 であるのに対し日本は約 388 であり、これらが肥満・糖尿病、高血圧・脳内汚染などの低年齢化を起す要因では

ないかといわれていました。

食とは、人を良くすると書き、「動物が生命を維持するために、栄養素を含む物質を（農畜水産物）を摂取することであり、中国では古来より病気になる前の「未病」の段階で食物によって病気を防ぐという考え方がある。未病の多くは生活習慣によっておこる。様々な生活習慣の中で、「食生活」こそが健康の基本である。だからこそ、未病を治す食習慣を見直さなければいけないと述べられていました。

2 日目は課題別研究協議会があり、10 課題に分かれて開催されました。

私は 第 10 課題 喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育—安全で豊かな社会と健康を守り育てるための喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の進め方—に参加してきました。

- ① 福井県立坂井農業・坂井高等学校 教諭 山田 純子  
 高等学校における喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の実践  
 「その一本を吸わせないために」
- ② 埼玉県川口市立芝西中学校 主幹教諭 大石 賢治  
 生徒の主体的参加を目指した薬物乱用防止教室  
 —教科等の横断的な取組、地域の力の結集を目指して—
- ③ 石川県金沢市立大浦小学校 教諭 畑 成人  
 喫煙をしない意思を育てる教育の実践  
 —受動喫煙防止の取組を通じて—

の、3 名の先生方の発表がありました。

3 名の先生方の具体的な工夫として、1. 学習や活動の中で自尊心を育てるとして、児童生徒の主体的な活動を取り入れできたことを賞賛し認めていること 2. 家庭や地域との連携の中で自尊心を育てるとして、保護者や地域から見守られている実感を味あわせ、社会の一員であること、自分が大切な一人である実感を積み重ね自尊心を育てている。これらの点が素晴らしいと感じました。地域との連携の中で、薬についての専門家である学校薬剤師への期待も多く感じられました。

最後に「ライフスキル形成を基礎とする喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育」の演題で、神戸大学大学院教授の川端 徹朗先生の講義がありました。生きていくうえで不可欠な基本的心理能力（ライフスキル）が育っていない子供たちは、社会的要因の影響を受けやすく喫煙、飲酒、薬物乱用を含む様々な危険行動をとるリスクが高いことが明らかである。ライフスキルの形成を高めることは、「生きる力」を育み、人生上の様々な困難を乗り越えて成長し大人としての社会的役割を果たすことになる。そのためには、ライフスキル教育を持続的に学校の教育システムに組み入れる必要があると述べられました。

本大会は全国の学校薬剤師の先生がたと交流でき、とても充実した大会です。

来年は愛媛県松山市にて 12 月に開催されます。是非とも先生方のご参加をお待ちしております。